

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学 I	3	1 年 1 類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
***	新編 数学 I (数研出版)	チャート式 基礎と演習 数学 I+A (数研出版)	

科目の到達目標
方程式と不等式、2 次関数および図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の 3 つの観点に基づいて、定期考査、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、ノート点検、小テストによって総合的に行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第 3 章 2 次関数 第 1 節 2 次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2 次関数のグラフ	2 次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 2 次不等式の解を求めることができるようにする。	2 次関数のグラフ	平方完成ができる。 平行移動と 2 次関数のグラフの関係を理解している。 方程式の解とグラフの関係を理解している。 グラフを用いて、2 次不等式を解くことができる。
	5	(中間考査) 第 2 節 2 次関数の値の変化 3. 2 次関数の最大・最小 4. 2 次関数の決定		2 次関数の最大・最小 最大・最小の応用	
	6	第 3 節 2 次方程式と 2 次不等式 5. 2 次方程式 6. 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係		2 次関数のグラフと x 軸との交点	
	7	7. 2 次不等式 (期末考査)		2 次関数のグラフと 2 次不等式	
二学期	9	第 4 章 図形と計量 第 1 節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 第 2 節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理	三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。	鋭角の三角比 180° - θ の三角比 三角比の相互関係	三角比の定義、基本公式を理解している。 図形に応用できる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	10	(中間考査) 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。	直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用	正弦定理，余弦定理を正確に使用できる。
	11	第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明 (期末考査)	集合についての基本的な事項を理解し，統合的に見ることの有用性を認識する。 論理的な思考力を伸ばし，集合を命題の考察に生かす。	集合の表し方，集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶 背理法を用いた証明	集合の要素の個数を求めることができる。 背理法を理解している。
	12				
三学期	1	第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	度数分布表，ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数 分散・標準偏差	
	2	数学Ⅱ 式と証明 ・整式の除法と分数式 整式の除法の計算 分数式の計算 恒等式 等式の証明 不等式の証明	数学的な考え方や論理的思考力を養い、式と証明についての理解を深める。		多項式の割算の方法を理解している。
	3	相加平均・相乗平均 (学年末考査)	数の範囲を複素数まで拡張して高次方程式を解くことができる。		等式・不等式の証明を通して、数学の論証に興味関心をもつ。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） 大学への進学に対応できる力をつけることを念頭に授業を進めます。数Ⅰの授業では、2次関数から学習し、3学期には数Ⅱの「式と証明」の内容に入ります。学力の定着を図るために、教科書の復習や参考書で毎日、家庭学習をすることを求めます。また、授業の進度に合わせて課題を出します。自分でまる付けをして、提出してください。また、毎週木曜と金曜の7限に行われる講習も活用し、日々の疑問を明日に残すことのないようにしてください。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅰ	4	1年・2類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	高等学校 数学Ⅰ（数研出版）	REPEAT 数学Ⅰ・A（数研出版） 青チャート 数学Ⅰ・A（数研出版）	

科目の到達目標
数と式、2次関数、データの分析、図形の性質、図形と計量、データの分析、三角関数（数学Ⅱ）、図形と方程式（数学Ⅱ）を学習し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

評価の観点と方法について
評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重視して、直感力・思考力・表現力を課題プリント・レポート・小テスト・課題テスト・定期考査等で確認していく。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント			
一 学 期	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数	数を実数まで拡張できる意義を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする	・式の計算 整式の加法と減法 整式の乗法 因数分解 ・実数 実数 根号を含む式の計算 ・1次不等式 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式	・指数法則を理解し、整式の四則演算ができるか。 ・いろいろな式の因数分解ができるか。 ・絶対値記号や不等式の解の意味を理解し、方程式・不等式を解くことができるか。			
	5	第3節 1次不等式 (中間考査)						
	6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ				・2次関数とグラフ 2次関数のグラフ 研究 グラフの平行移動 研究 グラフの対称移動	・平方完成ができるか。 ・頂点・軸について理解し、2次関数のグラフがかけられるか。 ・定義域を考え、最大値・最小値を求めることができるか。 ・2次関数のグラフと、2次方程式・2次不等式の解の相互の関係を理解しているか。	
		第2節 2次関数の値の変化						・2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 ・2次方程式と2次不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 発展 放物線と直線の共有点 2次不等式 研究 絶対値を含む関数のグラフ
		第3節 2次方程式と2次不等式						
	7	(期末考査) 夏期講習	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・平面図形 三角形の辺の比 三角形の外心・内心・重心 チェバ・メネラウスの定理 円と直線、2つの円	・三角形の外心・内心・重心の定義・性質を理解しているか。 ・チェバ・メネラウスの定理を活用できるか。 ・円や直線の位置関係について考察ができるか。			
		第2章 図形の性質 (数学A)						
		第1節 平面図形 (数学Aの授業と合わせて進める)						

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第4章 図形と計量 第1節 三角比	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・三角比 三角比、三角比の相互関係 三角比の拡張 ・三角形への応用 正弦定理、余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積、空間図形への応用 研究 四面体の体積	・直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できるか。 ・正弦定理・余弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができるか。
	10	第2節 三角形への応用 (中間考査)			
	11	第4章 三角関数 (数学Ⅱ) 第1節 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・角の拡張、三角関数 三角関数のグラフ、三角関数の性質 三角関数の応用 ・加法定理 三角関数の加法定理 加法定理の応用	・三角関数の相互関係を利用して様々な値を求めることができるか。 ・色々な三角方程式・不等式が解けるか。 ・三角関数の最大・最小が求められるか。
	12	第2節 加法定理 (期末考査) 冬期講習 (数学Aと合わせて進める) 海外研修の参加状況を見て、 数学Ⅰ第5章データの分析、 または既習範囲の問題演習の どちらかを行う。			
三 学 期	1	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・点と直線 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 2直線の関係 ・円 円の方程式 円と直線 2つの円 ・軌跡と領域 軌跡と方程式 不等式の表す領域	・平面上の線分を内分・外分する点の位置や2点間の距離を表せる。座標平面上の直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用できる。 ・座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用できる。 ・軌跡について理解している。 また、不等式の表す領域を求め、領域を不等式で表せる。
	2	第2節 円			
	3	第3節 軌跡と領域 (期末考査)			
その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など) 授業をどんどん前に進めていき、2学期中間テスト後には数学Ⅱの内容に入っていく予定です。これまでとは比べものにならないスピードで授業を前に進めますので、毎日の復習を徹底してください。そして、授業の復習に加えて、問題集の問題を少しずつでも解いてみてください。何度も何度も同じ問題を解くことで、確実に数学の力はついていきます。そしてその日々の積み重ねが、最後には大学受験を突破するための大きな力になります。自分から進んで、粘り強く勉強に取り組んでくれることを期待しています。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学 I	3	1 年 3 類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		新高校の数学 I (数研出版)	ポイントノート (数研出版)

科目の到達目標 中学までの計算の基本を再確認し、方程式と不等式、2 次関数および図形と計量について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。

評価の観点と方法について 評価は「知識、技能」「思考、判断、表現」「主体的に学習に向かう態度」の 3 つの観点に基づいて定期考査、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、小テスト等によって行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第 1 章 数と式 数と式の計算	多項式の意味を理解し計算規則を習得する 因数分解の基礎知識を習得する	式の展開 共通因数 2 次式の因数分解 3 次式の因数分解 因数分解応用 副教材演習	基本的な因数分解ができる
	5	中間考査 根号を含む計算 実数	数の体系を理解し根号を含む計算を習得する	有理数 無理数 実数 絶対値 根号を含む式の計算	絶対値、根号を含む式の計算ができる
	6	1 次不等式	1 次不等式の解法を習得する	不等式の基本性質 1 次不等式の解法 1 次不等式の応用 副教材演習	1 次不等式を解くことができる
	7	第 4 章 集合と命題 期末考査	集合 命題 命題の証明	集合を用いた真偽 偽のとき反例を示すこと 必要条件・十分条件 命題の逆と対偶、背理法の証明	集合を用いて証明をすることができる。 逆と対偶が理解できる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二学期	9	第2章 2次関数 2次関数のグラフ	2次関数とグラフの関係を理解しグラフを描ける	関数の意味 2次関数グラフを描くための式変形 グラフの平行移動 グラフ描画	グラフを描くための式変形ができる グラフを描ける
		2次関数の値の変化		2次関数の最大最小 条件を満たす2次関数を決定する	最大最小問題を解ける
	10	中間考査 グラフと2次方程式	2次方程式の解法を習得する	因数分解による解法 解の公式 2次方程式解の分類 2次方程式の応用	2次方程式を解くことができる 解の分類ができる
	11	第5章 データの分析 期末考査	度数分布表 代表値、箱ひげ図 分散、標準偏差	ヒストグラム 代表値 (平均値・最頻値・中央値) 四分位数と箱ひげ図 分散と標準偏差	
	12				
二学期	1	第3章 図形と計量 三角比	三角比の基礎知識を習得する	三角比、三角比の相互関係 三角比の拡張	三角比の定義を覚え、図形に応用できる
	2	三角形への応用	三角形への応用	正弦定理、余弦定理 三角形の面積	正弦定理、余弦定理を用いることができる 図形の面積を求めることができる
	3	学年末考査			
その他 (履修上の留意点など) まず、与えられた宿題や休暇中の課題は必ずやってください。提出を求められていれば従ってください。学習する目的を理解して授業に望みましょう。課題や授業態度を平常点として加味します。 また、数学の用語を正確に理解し修得することに努めて下さい。課題の問題をこなし達成感を味わえる勉強をしてください。教科書を丁寧に読み、公式を覚え演習問題を繰り返して下さい。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学A	2	1年・1類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
****	新編 数学I, 数学A (数研出版)		チャート式 基礎と演習 数学I+A (数研出版)

科目の到達目標
式の計算, 1次不等式, 実数(数学I), 場合の数, 確率, 図解の性質(数A)について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識する。

評価の観点と方法について
評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて, 定期考査の他に, レポート, 平素の学習意欲, 学習態度, 出席状況, ノート点検等によって行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第1章 数と式(数I) 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解	多項式の演算, 因数分解を確実にできるようにする	多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解 複数の文字を含む式の因数分解	展開, 因数分解が速く, 正確にできる
	5	(中間考査)			
	6	第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	絶対値の記号を理解し, 絶対値を含む方程式・不等式を解けるようにする	実数 分母の有理化	根号を含む式の計算ができる
	7	第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 (期末考査)	1次不等式, 連立不等式が解けるようにする	1次不等式, 連立不等式, 絶対値を含む方程式・不等式	1次不等式, 連立不等式が解ける

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第1章 場合の数と確率 (数A) 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	具体的な事象の考察などを通して、順列、組合せについて理解し、事象を数学的に考察し処理できるようにする	順列、円順列、重複順列、組合せ 組合せと絡めた総合問題	順列、組合せの問題を解くことができる
	10	(中間考査)			
	11	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率	順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理できるようにする	試行, 根元事象, 確率の定義 排反事象, 加法定理, 余事象 独立な試行 反復試行の確率 条件付き確率	確率を正確に計算することができる
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	第2章 図形の性質 (数A) 第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバ・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図	平面図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける	三角形の辺の比 三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 円と共通接線 方べきの定理 2円の位置関係	三角形の重心、外心、内心に関する角度および長さを求めることができる。 円に内接する四角形の性質を理解し、角度および長さを求めることができる
	2				方べきの定理を用いて標準問題を解くことができる
	3	第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体 (期末考査)	空間図形に関する基本的な性質を理解する	2直線の位置関係 直線と平面の位置関係 2平面の位置関係 多面体	
その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など) 大学入試に対応できる力をつけるためには、基本事項の確実な習得、そして基礎的な計算力と論理的思考力をつけることが必要です。数学を入試に必要としない生徒にも論理的な思考力や計算力を習得し、基本事項を理解することが重要です。そのためには、教科書の復習と参考書で授業内容の定着をはかるように毎日の家庭学習を求めます。また、授業の進度に合わせて宿題を出すので、必ず提出してください。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学A	2	1年・2類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	高等学校 数学A (数研出版)	REPEAT 数学I・A (数研出版) 青チャート 数学I・A (数研出版)	

科目の到達目標
集合と命題、場合の数と確率、図形の性質、整数、データの分析、式と証明 (数学II)、高次方程式 (数学II) について学習し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

評価の観点と方法について
評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重視して、直感力・思考力・表現力を課題プリント・レポート・小テスト・課題テスト・定期考査等で確認していく。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	(数学I) 第2章 集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	・集合 研究 3つの集合の共通部分と和集合 命題と条件、命題と証明 研究 $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明 発展 「すべて」と「ある」の否定	・集合の表し方を理解しているか。また、ベン図などを用いて集合を視覚的に表現して処理できるか。 ・命題の真偽を考察でき、必要条件や十分条件について判断できるか。 ・対偶や背理法を適切に用いるなどして命題の証明ができているか。
	5	(中間考査) 数学A			
	6	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・場合の数 集合の要素の個数 場合の数 順列 組合せ 研究 重複を許して作る組合せ	・ベン図などを利用して集合の要素の個数を数えることができるか。 ・和の法則や積の法則を適切に利用できるか。 ・場合の数を順列・円順列・重複順列・組合せ・重複組合せに帰着させて求められるか。
	7	(期末考査) 夏期講習 第2章 図形の性質 (数学A) 第2節 空間図形 (数学Iの授業と合わせて進める)	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・空間図形 直線と平面 研究 三垂線の定理 空間図形と多面体 研究 正多面体の種類	・空間における直線や平面が垂直や平行になるかを与えられた条件から考察できるか。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第1章 場合の数と確率 第2節 確率	確率を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・確率 事象と確率 確率の基本性質 独立な試行と確率 条件付き確率 研究 原因の確率	・集合の考え方と積の法則を活用し、複雑な事象の確率を求められるか。 ・確率の乗法定理を理解しているか。
	10	(中間考査) 第3章 数学と人間の活動	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	・約数と倍数 約数と倍数 素数と素因数分解 最大公約数と最小公倍数	・原因の確率を求められるか。 ・倍数の判定法を理解しているか。
	11			ユークリッドの互除法 1次不定方程式、記数法、座標の考え方 ゲーム・パズルの中の数学	・最大公約数・最小公倍数・素因数の関係を理解しているか。 ・互除法の原理を理解し、1次不定方程式を満たす整数の組を求めることができるか。
	12	(期末考査) 冬期講習 (数学Ⅰと合わせて進める) 海外研修の参加状況を見て、数学Ⅰ第5章データの分析、または既習範囲の問題演習のどちらかを行う。	既習範囲の問題演習 重要問題、応用問題を解くことで、さらに難易度の高い問題に対応する力を養う。	2次関数、三角比、三角関数、確率、などの範囲から集めてきた重要問題、応用問題を解く。	・n進法の整数・小数を10進法で、10進法の整数・小数をn進法で表せるか。 ・重要問題、応用問題が解けるか。 それらを使って、さらに難易度が高い問題を解くための、考える力がついているか。
三 学 期	1	第1章 式と証明 (数学Ⅱ) 第1節 式と計算 (冬期講習で既習範囲の問題演習を行った場合は、データの分析を行う)	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	・式と計算 3次式の展開と因数分解 二項定理、整式の割り算 分数式とその計算、恒等式	・多項式の割り算ができるか。 ・分数式の四則演算ができるか ・方程式と恒等式の違いを理解しているか
	2	第2節 等式・不等式の証明		・等式・不等式の証明 等式の証明、不等式の証明	・等式・不等式の証明、数学の論証ができるか。
	3	(期末考査)			

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

授業をどんどんと前に進めていき、2学期の期末テストで数学Aを終える予定です。これまでとは比べものにならないスピードで授業を前に進めますので、毎日の復習を徹底してください。そして、授業の復習に加えて、問題集の問題を少しずつでも解いてみてください。何度も何度も同じ問題を解くことで、確実に数学の力がついていきます。そしてその日々の積み重ねが、最後には大学受験を突破するための大きな力になります。自分から進んで、粘り強く勉強に取り組んでくれることを期待しています。